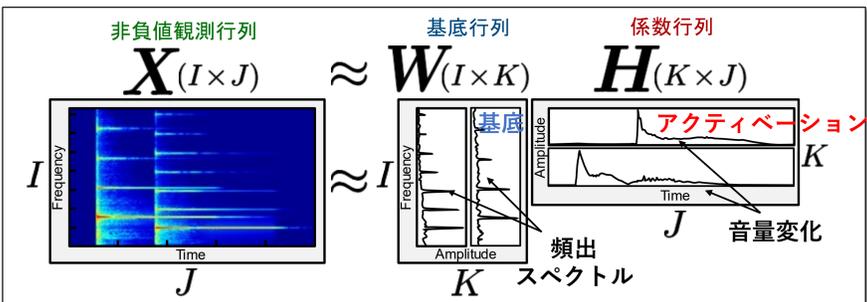


本発表の概要

- 非負値行列因子分解 (nonnegative matrix factorization: NMF) は様々なタスクに活用可能
- 事前モデルを導入し最適化を誘導する正則化付きNMFが各種提案されてきた
 - L1ノルム正則化によるスパース性の誘導 (スパースNMF)
 - 連続性正則化によるスムーズ性の誘導 (スムーズNMF)
- スパース性とスムーズ性を統一的に表現できる新しい正則化付きNMFを提案**
 - ➡ **ディリクレ事前分布を仮定した最大事後確率推定によるNMF (ディリクレNMF)**
- 制約条件付き補助関数法を適用し反復更新式を導出
- 乱数を用いた数値実験ではスパース・スムーズな基底を完全に推定

1. 研究背景

- 非負値行列因子分解 (nonnegative matrix factorization: NMF) [Lee+, 1999]
 - 観測非負行列を別の2つの非負行列の行列積で低ランク近似する手法
 - 音響信号では時間周波数のモデリングに頻繁に用いられる



2. 正則化付きNMF

- スパースNMF** [Hoyer, 2004], [Le Roux+, 2015], [Marrim+, 2023]等
 - NMFの変数行列をスパースに誘導する**L1ノルム正則化**付きNMF

$$\text{Minimize } \mathcal{D}(X|WH) + \mu \|W\|_1 \text{ s.t. } w_{i,k}, h_{k,j} \geq 0 \forall i, j, k, \|w_k\|_1 = 1 \forall k$$

- スムーズNMF** [Virtanen+, 2007]等
 - NMFの変数行列の列や行をスムーズに誘導する**隣接差分正則化**付きNMF

$$\text{Minimize } \mathcal{D}(X|WH) + \mu \sum_{i,k} |w_{i,k} - w_{i-1,k}|^2 \text{ s.t. } w_{i,k}, h_{k,j} \geq 0 \forall i, j, k, \|w_k\|_1 = 1 \forall k$$

スパース性とスムーズ性の両方を統一的に扱える正則化は無かったNMFのWとH間のスケール不定性の存在は正則化において要注意

- 事前分布の最大事後確率推定 (MAP推定) に基づく正則化付きNMF
 - 基底行列Wが事前分布 $p(W)$ に従うと仮定するMAP推定NMF

$$\text{Minimize } \mathcal{D}(X|WH) + \mathcal{R}(W) \text{ s.t. } w_{i,k}, h_{k,j} \geq 0 \forall i, j, k$$

➡ $\mathcal{R}(W) = -\log p(W)$ は事前分布由来の正則化項

新規性 ディリクレ分布をNMFの事前分布に導入
スパース・スムーズを統一的に扱いつつスケール不定性を回避

3. 提案手法

- ディリクレ分布
 - 非負制約とノルム制約を満たす確率変数ベクトル (標準単体上のベクトル) の分布
 - 標準単体の定義
 - ディリクレ分布の確率密度関数

$$\mathcal{S}_{I-1} = \left\{ x \in \mathbb{R}^I \mid x_i \geq 0 \forall i, \sum_i x_i = 1 \right\}$$

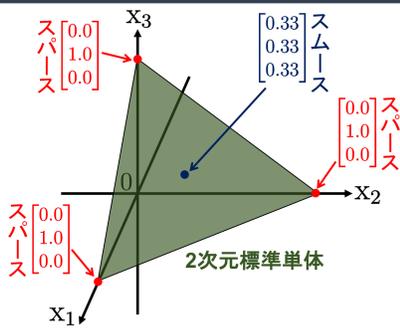
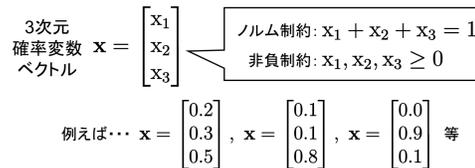
非負制約 ノルム制約

$$x \sim p(x; \alpha) = \frac{1}{B(\alpha)} \prod_i x_i^{\alpha_i - 1}$$

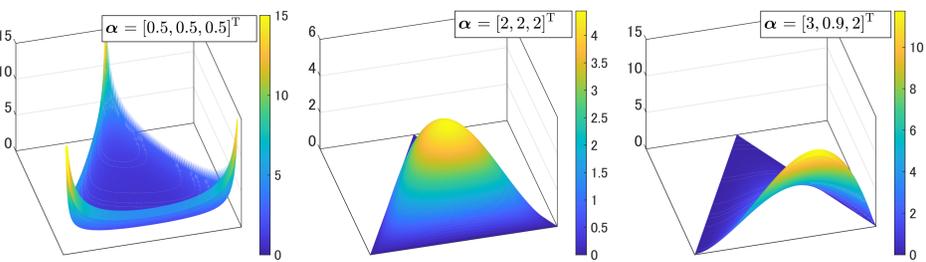
確率変数ベクトル パラメータ多変数ベクトル $B(\alpha) = \frac{\prod_i \Gamma(\alpha_i)}{\Gamma(\sum_i \alpha_i)}$ ベータ関数

3次元確率変数ベクトルの場合

- 2次元標準単体上の確率変数ベクトル (3変数だがノルム制約より自由度は2)



- パラメータベクトル $\alpha = [\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3]^T$ は**確率密度の各頂点への集中度**に対応
➡ **スパースやスムーズなベクトルの生成確率密度を α で制御可能**



ディリクレNMFの目的関数と最適化の方針

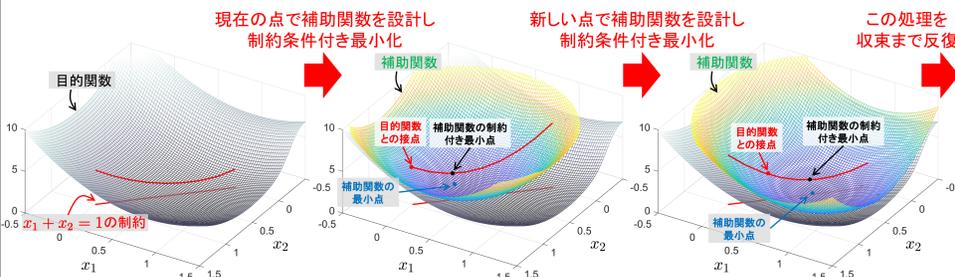
- ディリクレ分布から基底行列の各列 (基底ベクトル) が独立に生成されると仮定

$$\text{Minimize } \mathcal{D}(X|WH) + \sum_{i,k} (\alpha_{ik} - 1) \log w_{ik}^{-1} \text{ s.t. } w_{i,k}, h_{k,j} \geq 0 \forall i, j, k, \sum_i w_{ik} = 1 \forall k$$

- NMFでは常套手段の**補助関数法**を用いるが、ディリクレ分布由来の**ノルム制約**を陽に扱って解く必要がある ➡ **補助関数法の上限関数最小化に制約条件を付与**

制約条件付き補助関数法

- 「本来の目的関数に対する最適化問題の制約条件」を「補助関数の最小化問題」にも引き継いで考慮しながら最小化



補助関数の非負制約・ノルム制約条件付き最適化問題

$$\text{Minimize } \mathcal{J}^+ \text{ s.t. } w_{i,k}, h_{k,j} \geq 0 \forall i, j, k, \sum_i w_{ik} = 1 \forall k$$

- 補助関数の最小化問題に対して**非負制約とノルム制約**の両方を考慮
- 一般化KL擬距離に対する**補助関数とディリクレ分布由来の正則化項(そのまま)**

$$\mathcal{J}^+(W, H, \Delta) = \sum_{i,j} x_{ij} \log x_{ij} - x_{ij} \sum_k \delta_{i,j,k} \log \frac{w_{i,k} h_{k,j}}{\delta_{i,j,k}} - x_{ij} + \sum_k w_{i,k} h_{k,j} + \sum_{i,k} (\alpha_{i,k} - 1) \log w_{i,k}$$

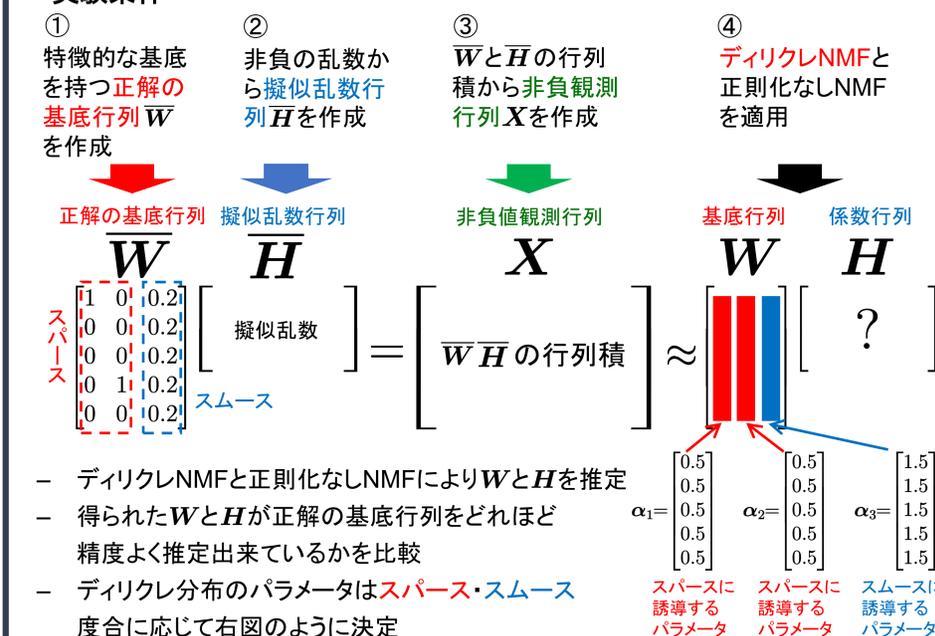
ディリクレNMFの反復更新式

$$w_{ik} = \begin{cases} \hat{w}_{ik} & (\text{if } \hat{w}_{ik} \geq 0) \\ 0 & (\text{otherwise}) \end{cases} \quad \hat{w}_{ik} = \frac{w_{ik} \sum_j \frac{x_{ij}}{\sum_{k'} w_{i,k'} h_{k',j}} h_{k,j} + \alpha_{i,k} - 1}{\sum_{i \in \mathcal{I}_k} (w_{ik} \sum_j \frac{x_{ij}}{\sum_{k'} w_{i,k'} h_{k',j}} h_{k,j} + \alpha_{i,k} - 1)}$$

補助関数の最適化問題に対するラグランジアン \mathcal{L} を考えたときに、 $\partial \mathcal{L} / \partial w_{ik} = 0$ を満たす w_{ik} が非負となるインデックス i の集合 (k 毎にこの集合を定義している)

4. 乱数を用いた数値実験

- 実験目的
 - ディリクレNMFの正則化の効果及び導出の正当性の確認実験
- 実験条件



実験結果

正解の基底行列及び係数行列

Basis mat. (oracle)			Coef. mat. (oracle)											
1	0	1	0.2	1	0.417	0.3023	0.1863	0.5388	0.2045	0.6705	0.1404	0.9683	0.8764	0.03905
2	0	0	0.2	2	0.7203	0.1468	0.3456	0.4192	0.8781	0.4173	0.1981	0.3134	0.8946	0.1698
3	1	0	0.2	3	0.0001144	0.09234	0.3968	0.6852	0.02739	0.5587	0.8007	0.6923	0.08504	0.8781
4	0	0	0.2											
5	0	0	0.2											

正則化なしNMFで得られた基底行列及び係数行列

Basis mat. (simple NMF)			Coef. mat. (simple NMF)											
1	0.02527	0.7875	0.3726	1	0.1908	0.3024	0.1971	0.6257	2.22e-16	0.7339	0.3024	1.117	0.6972	0.2141
2	0.02097	1.424e-14	0.1805	2	0.935	0.1694	0.3375	0.3636	1.073	0.3982	0.01888	0.2418	1.134	0.0002197
3	0.9351	0.2203	0.01564	3	2.22e-16	0.06597	0.4161	0.6848	0.03104	0.5316	0.8722	0.6323	1.885e-07	0.9334
4	0.02097	1.16e-15	0.1805											
5	0.02097	7.385e-15	0.1805											

ディリクレNMFで得られた基底行列及び係数行列

Basis mat. (Dirichlet NMF)			Coef. mat. (Dirichlet NMF)											
1	0	1	0.2	1	0.417	0.3023	0.1863	0.5388	0.2045	0.6705	0.1404	0.9683	0.8764	0.03904
2	0	0	0.2	2	0.7203	0.1468	0.3456	0.4192	0.8781	0.4173	0.1981	0.3134	0.8946	0.1698
3	1	0	0.2	3	0.0001144	0.09234	0.3968	0.6852	0.02739	0.5587	0.8008	0.6923	0.08504	0.8782
4	0	0	0.2											
5	0	0	0.2											

5. まとめ

- ディリクレ分布を事前分布に仮定した正則化付きNMFの導出を行った
- 提案手法の効果と導出の正当性を実験的に確認した

原稿の誤りに関する訂正

訂正①

集合である。ラグランジアンは次式となる。

$$\mathcal{L} = \mathcal{J}^+ + \sum_k \lambda_k \left(\sum_i w_{ik} - 1 \right) \quad (12)$$

削除

ここで、 λ_k はラグランジュ乗数を表す。非負制約

訂正②

訂正前

以後、 \hat{w}_{ik} を求める。 $\partial \mathcal{L} / \partial w_{ik} = 0$ より

$$\sum_j \left(-x_{ij} \frac{\delta_{ijk}}{\hat{w}_{ik}} + h_{kj} \right) - (\alpha_{ik} - 1) \frac{1}{\hat{w}_{ik}} + \lambda_k = 0$$

を得る。これを整理して、 \hat{w}_{ik} は次式となる。

$$\hat{w}_{ik} = \frac{\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1}{\sum_j h_{kj} + \lambda_k} \quad (17)$$

また、式(15)より $\sum_i w_{ik} - 1 = 0$ を得るが、これはノルム制約 $\sum_i w_{ik} = 1 \forall k$ と等価である。このノルム制約に式(16)を代入して、次式を得る。

$$\sum_i \max(\hat{w}_{ik}, 0) = 1 \quad (18)$$

ここで、 $\max(\cdot, \cdot)$ は入力値の大きい方を返す。式(17)を式(18)に代入すると、 \hat{w}_{ik} の分母は非負値のため

$$\sum_j h_{kj} + \lambda_k = \sum_i \max \left(\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1, 0 \right) \quad (19)$$

が得られる。式(19)を式(17)の分母に代入してラグランジュ乗数 λ_k を消去すると、次式となる。

$$\hat{w}_{ik} = \frac{\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1}{\sum_i \max \left(\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1, 0 \right)} \quad (20)$$

訂正後

以後、 \hat{w}_{ik} を求める。 $\partial \mathcal{L} / \partial w_{ik} = 0$ より

$$\sum_j \left(-x_{ij} \frac{\delta_{ijk}}{\hat{w}_{ik}} + h_{kj} \right) - (\alpha_{ik} - 1) \frac{1}{\hat{w}_{ik}} + \lambda_k = 0$$

を得る。これを整理して、 \hat{w}_{ik} は次式となる。

$$\hat{w}_{ik} = \frac{\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1}{\sum_j h_{kj} + \lambda_k} \quad (17)$$

式(16)を考慮すると、式(17)で求まる \hat{w}_{ik} が非負になる要素のみ着目すればよいため、 $\hat{w}_{ik} \geq 0$ を満たすインデクス i の集合を k 毎に \mathcal{I}_k とおく。また、式(15)より $\sum_i w_{ik} - 1 = 0$ を得るが、これはノルム制約と等価であり、次式に書き換えられる。

$$\sum_i w_{ik} = \sum_{i \in \mathcal{I}_k} \hat{w}_{ik} = 1 \forall k \quad (18)$$

式(17)を式(18)に代入して整理すると

$$\sum_j h_{kj} + \lambda_k = \sum_{i \in \mathcal{I}_k} \left(\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1 \right) \quad (19)$$

が得られる。式(19)を式(17)の分母に代入してラグランジュ乗数 λ_k を消去すると、次式となる。

$$\hat{w}_{ik} = \frac{\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1}{\sum_{i \in \mathcal{I}_k} \left(\sum_j x_{ij} \delta_{ijk} + \alpha_{ik} - 1 \right)} \quad \forall i \in \mathcal{N}_k, \forall k \quad (20)$$